

地域若者サポートステーションにかかる市町村会議の開催

～経緯～

- 雇用情勢が回復基調にある中、心理的な支援を必要とする方や、生活上の不安を抱える方など、すぐには一般就労への移行が難しい方への支援がより一層必要となった。
- 県内の地域若者サポートステーション（以下「サポステ」という。）では若年者の職業的自立に向けた支援を行っており、県においてサポステにおける就労支援の現状を把握するため、会議を開催することとした。

～県の取組内容～

- 9月28日サポステ会議を開催
 - ・サテライトを含む県内9か所のサポステ担当者による会議を開催
 - ・サポステと市町村の連携状況を共有
 - ⇒課題：「市町村の労政担当とはある程度連携が取れているが、福祉担当者とは連携が取れていない」
- 12月21日・23日にサポステにかかる市町村会議を開催
 - ・尾張地域と三河地域それぞれで市町村担当者とサポステを一堂に会する会議を開催
 - ・サポステの周知及び市町村との連携事例の横展開を図る
 - ・円滑に就労支援につなげられるよう、市町村の労政担当者と福祉担当者及びサポステとの意見交換を行い、横のつながりをつくる

～結果～

●サポステから

- ▶労政サイドとはある程度コミュニケーションがとれていましたが、福祉サイドとはあまりコミュニケーションがとれていなかったため、今回顔が見える名刺交換が出来たので、次のアクションがとりやすくなりました。
- ▶出張相談で何う際にお話できないことも伺えた。自治体により福祉窓口としてのサポステとつながれる動きの窓口が違った。

●市町村から

- ▶担当のサポステ職員の方から事業の内容、強みを聞いた。今後の連携方法を検討する上でとても役立ちました。
- ▶今回の会議でサポステについて知ることができてよかったです。サポステが福祉関係機関に周知されれば、さらに活用されると思いました。
- ▶福祉部局との連携が必要だと感じました。町でも分散で事業が行われているので、つながりを考えなくては…と思いました。
- ▶各市町の連携体制、就労支援体制を知るきっかけとなった。

- 引き続き、支援を必要とする方々の個別のケースに応じて、適切な支援を実施するため、サポステと市町村が連携を深められるよう取り組む。